

WPW 症候群を合併した Brugada 症候群の 2 症例 — 副伝導路による Brugada 型心電図の修飾 —

福田浩二* 熊谷浩司* 若山裕司* 菅井義尚*
広瀬尚徳* 山口展寛* 下川宏明*

Brugada 型心電図の機序の一つに心室筋脱分極異常が考えられる。顕性 WPW 症候群の副伝導路(AP)を介する心室筋興奮伝播の変化は、Brugada 型心電図に影響を与える可能性がある。われわれは顕性 WPW 症候群を合併した Brugada 症候群 2 症例を経験し、AP を介する興奮が Brugada 型心電図に及ぼす影響を検討した。

【症例 1】53 歳男性。主訴は動悸。失神発作、突然死の家族歴なし。前胸部誘導で coved 型 ST 上昇を認めた。電気生理検査(EPS)にて AP の局在は左側後壁であり、心房早期期外刺激による AP 伝導最大時にその ST 上昇は増大。高周波カテテルアブレーション(RFCA)にて AP 離断後 ST は低下したが、ピルジカイニド負荷で再び coved 型 ST 上昇出現。無症候性 Brugada 症候群と診断。

【症例 2】失神歴のある 40 歳男性。主訴は動悸。前胸部誘導で coved 様の ST 上昇を認めた。ピルジカイニド負荷にてデルタ波消失後、coved 型 ST 上昇出現。EPS にて AP の局在は左側後側壁であり、RFCA による AP 離断後に前胸部誘導 ST は低下。最終的に有症候性 Brugada 症候群と診断し、植込み型除細動器植込みとなった。

【まとめ】AP を介する興奮伝播の変化が Brugada 型心電図を修飾した。Brugada 型心電図の機序に脱分極過程の関与する可能性が示された。

Keywords

- Brugada 症候群
- WPW 症候群
- 心室細動
- 興奮伝播遅延

* 東北大学大学院循環器病態学
(〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1)

*Two cases of Brugada syndrome coexisting with WPW syndrome-The modification of Brugada-type ECG by accessory pathways-
Koji Fukuda, Koji Kumagai, Yuji Wakayama, Yoshinao Sugai, Masanori Hirose, Nobuhiro Yamaguchi, Hiroaki Shimokawa*